

2. 安定した雇用を創出する

○和歌山県では平成8年以降20年連続して転出者が転入者を超過している状況

転出超過を抑制させる取組が必要

【総合戦略目標】直近5か年の転出超過累計数（H22～26：▲12,540人）を今後5か年で半減させる

「ひと」が地域に定着するためには、**生活を支える「しごと」**が求められる。

そのためには、従来の産業振興政策に加え、
県主導で**新たな領域を切り開く取組**を展開することが重要 →**新政策に反映**

中小企業 振興

課題

- 下請け型ビジネスモデルの構造 → イノベーションや創業を次々と誘発する環境整備
新規開業率が低位 (P15、P17)
- 県外への進学率が非常に高い → 産業を支える次世代人材の確保 (P16)

新政策

農林水産業 振興

課題

- 生産のみを重視する経営者 → 優れた経営感覚を備えた担い手の育成 (P20)
- 活用されていない地域資源 → 他分野とコラボレートした新事業展開 (P18、P24)

新政策

観光 振興

課題

- ポスト“ゴールデンイヤー” → 新たな観光資源の掘り起こし (P25～P26、P28)
- 増加する外国人観光客に未対応
のサービス → 情報発信や受入体制など、外国人観光客への
対応強化 (P27)

新政策

2. 安定した雇用を創出する

◆新規 ◇拡充 ◇継続

・金額単位のないものは千円単位

・()内は昨年度当初予算額

県内で就職を希望する人をすべて受け入れる

【具体的目標】 5年間で4,000人の雇用の場を確保

県内企業の成長力強化

「安定した雇用」を継続的に創出するためには、県内産業の活性化が不可欠である。研究開発・商品開発・販路開拓・人材育成など、発展の各段階で国や県の施策、金融機関のツール・ネットワークを総動員して企業のチャレンジを支援する。

①中小企業の競争力強化

◆オープンラボの整備 10,917【27補正42,446】(-) P15

県内企業の成長に必要と考えられる技術の開発やオープンラボの整備により、ニッチトップ企業、コネクターループ企業を育成

◇先駆的産業技術研究開発支援 新規支援枠2億円

先端的産業分野で企業が全国や海外に進出するための意欲的な研究開発を支援

◇基金を活用した支援

「わかやま中小企業元気ファンド」、「わかやま農商工連携ファンド」により、新製品や新サービスの開発、販路開拓等を支援

◇和歌山産品の販売促進 47,867 (47,219)

県内企業が持つ優れた製品・技術力等を発信するため、国内外の展示会への出展や県内企業と大企業・海外企業による商談会の開催などを支援

◆若手中核人材の確保 P16

製造業・IT産業の企業が優秀な理工系・情報系人材を確保できるよう、学生が借り入れた奨学金の返還金を助成する制度を企業と協働で創設

◆プロフェッショナル人材確保 20,000【27補正56,000】(-)

地域の中小企業が持つ潜在成長力を伸ばすため、「プロフェッショナル人材戦略マネージャー」の配置や企業のプロ人材確保等を支援

②新産業の創出

◆わかやまスタートアップ創出 【27補正3,435】(-) P17

これからの県経済をけん引する新たな担い手を育成するため、優秀なビジネスプランを持つ創業者、第二創業者を支援

◆木質バイオマスの利活用促進 8,778 (-) P18

木質バイオマス発電所の立地に向けた支援制度を創設

③地域経済の持続的発展

◆「わかやま版PFI」を活用した民間企業等の誘致を検討 P19

産業振興や地域活性化につながる施設整備と運営の新たな手法を検討

◇中小企業融資制度の充実 新規融資枠900億円

経営の安定化や事業の活性化に必要な資金を円滑に調達できるよう、県と金融機関、信用保証協会が協力して融資を実施

たくましい農林水産業の創出

生産拡大、販売促進、担い手の育成・確保などを図ることにより競争力を強化するとともに、新分野への展開を図り、持続可能でたくましい農林水産業を創出する。

①優れた経営感覚を持つ人材の育成

◆新生 農林大学校(仮称) 14,548 (-) P20

農業大学校を改編し、優れた経営感覚を持つ農業者や林業者を育成

2. 安定した雇用を創出する

◆新規 ◇拡充 ◇継続

・金額単位のないものは千円単位

・()内は昨年度当初予算額

②産地の競争力強化

◆野菜・施設園芸団地整備推進 P21

担い手に農地を集積し、露地野菜や施設園芸に対応できる農地とするため、ほ場整備を推進

◇果樹産地の強化 【27補正150,000】 (116,000)

高品質果実の生産や流通のための施設整備、新戦略商品開発などを総合的に支援するとともに、厳選出荷により和歌山みかんの市場評価を高め、果樹産地の競争力を強化

◇県産食材のブランド力向上 22,150 (24,500)

大手企業商品とのコラボによる新商品開発やJ Aグループ和歌山との連携によるPR、イメージキャラクター等を活用した「おいしい！健康わかやま」の発信等、県産食材のブランドイメージを定着させる取組を実施

◇野生鳥獣害対策 422,293 (424,796) P22

野生鳥獣による農作物被害を減少させるため、捕獲を重点に防護・人材育成等の総合的な対策を推進するとともに、わかやまジビエの消費・供給量拡大のため、「わかやまジビエ認証制度」の普及促進やジビエサミット開催等の取組を実施

③森林・林業の再生

◆森林・林業総合戦略 P23

素材生産量目標を達成するため、ゾーニングを行い、「選択と集中」を強化

◆木質バイオマスの利活用促進 8,778 (-) 〈再掲〉P18

木質バイオマス発電所の立地に向けた支援制度の創設により、新たな木材需要を創出

④新分野への展開

◆グリーンツーリズム・ブルーツーリズム推進 2,891 【27補正24,000】 (-) P24

農林水産業と観光を融合したグリーンツーリズム・ブルーツーリズムを推進するため、体験・交流施設等の整備や地域による情報発信活動等を支援

観光の振興

和歌山県が誇る観光資源の国内外での認知度向上をめざす。
また、それぞれの観光素材の充実と受入体制を強化するとともに、新たな観光資源を創出する。

①観光資源の情報発信

◇大河ドラマ「真田丸」を活用した誘客促進

【27補正40,000】 (65,000) P25

戦国時代を切り口とした新たな観光コンテンツ「戦国わかやま」を確立

◆「水の国、わかやま。」キャンペーン 【27補正30,000】 (-) P26

「水」をテーマにまだ知られていない「和歌山」を発信し、世界遺産をはじめとするブランドとゾーニングすることで集客力の弱い地域にも観光客を誘導

◇外国人観光客への対応強化 140,516 【27補正76,600】 (94,971) P27

海外向けの情報発信、誘客促進及び受入体制の整備により、インバウンド対応を強化

②観光素材のブラッシュアップ

◇世界遺産追加登録 参詣道魅力再発見 16,994 【27補正61,169】 (30,008) P28

「世界遺産」の追加登録を契機に、さらなる誘客促進と受入体制の整備を実施

◆グリーンツーリズム・ブルーツーリズム推進 2,891 【27補正24,000】 (-)

〈再掲〉P24

農林水産業と観光を融合したグリーンツーリズム・ブルーツーリズムを推進するため、体験・交流施設等の整備や地域による情報発信活動等を支援

オープンラボの整備

平成28年度 : 10,917千円
平成27年度補正 : 42,446千円
(新規)

企業への技術移転等を通じて、**ニッチトップ企業、コネクターハブ企業^{※1}**を育成

1. 工業技術センターでの「**コア技術**」^{※2}開発

今後5～10年先の成長に必要と考えられる技術を開発し、県内企業へ展開

2. 企業支援ツールを集約した「**オープンラボ**」を工業技術センターに整備

ケミカルスマートものづくりラボ

「計算化学」の手法を取り入れ、有機化学反応の予測や材料設計の効率化による製品開発のスピードアップを促進

〔平成28年度 **計算化学システム**を導入〕

3Dスマートものづくりラボ

3Dプリンター、産業用X線CT等の**3D関連機器**を活用した効率的な試作品開発を促進

平成27年度
地方創生先行型交付金(H26補正)で機器等を整備
平成28年度～平成30年度
戦略産業雇用創造プロジェクトに申請中

レーザー&テキスタイルラボ

フードプロセッシングラボ

※1 地域で取引関係の中心となっているハブ機能と、他地域と取引を繋げているコネクター機能を有する企業

※2 3Dデータ活用技術、画像処理・センシング技術、化学分析・材料評価技術など

若手中核人材の確保

商工観光労働部 労働政策課 [2805]

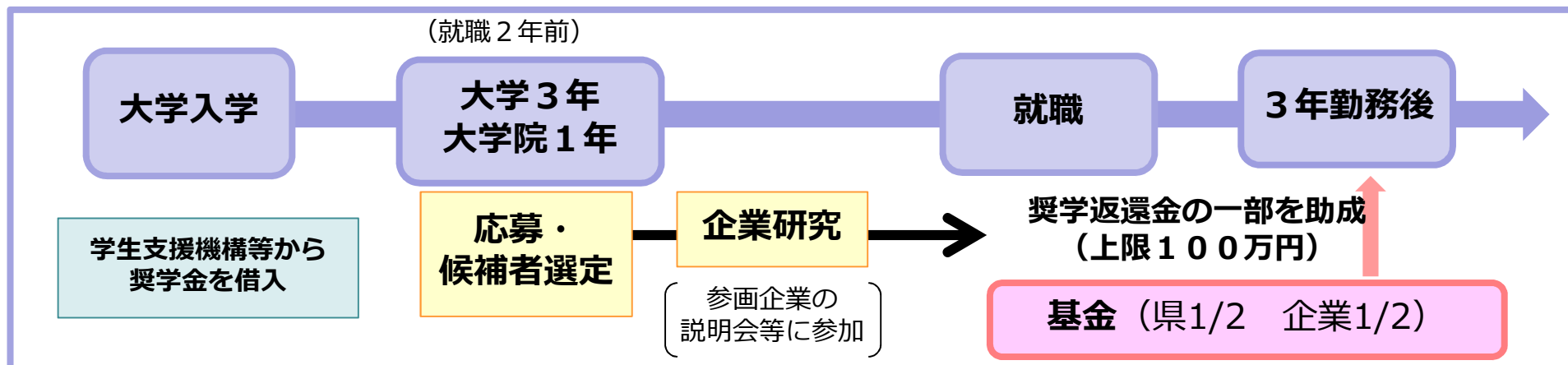
製造業・IT産業の企業が**優秀な理工系・情報系人材**を確保できるよう、
学生が借り入れた**奨学金の返還金を助成**する制度を**企業と協働**で創設

- 【対象者】 ①大学・大学院の理工系・情報系の学部・研究科の出身者
②貸与型奨学金を借りている者
③県内の製造業・IT産業の企業へ就職し**3年間勤務した者**

【助成額】 **上限100万円**（募集枠50人）

【負担割合】 県1/2 企業1/2

〈助成までの流れ〉



わかやまスタートアップ創出

平成27年度補正：3,435千円
(新規)

これからの県経済をけん引する新たな担い手を育成するため、
優秀なビジネスプランを持つ創業者、第二創業者を支援

発掘

- 創業セミナー等による創業気運の醸成と創業・第二創業者の発掘

審査

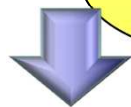
- ビジネスプラン審査会を開催し、ベンチャーキャピタル等が支援先を決定

支援

- アドバイザーによる経営戦略・経営実務等のきめ細かなハンズオン支援
- ベンチャーキャピタル等の人脈による事業提携・出資等による全国展開支援

発掘

創業
セミナー



創業・第二創業



ベンチャーキャピタル等



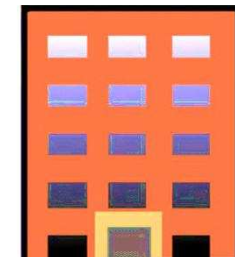
審査

派遣

支援



全国規模・グローバルに
展開する企業へ



木質バイオマスの利活用促進

平成28年度：8,778千円
(新規)

木質バイオマス発電所の立地に向けて支援制度を創設

背景

- 平成24年7月「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」※1がスタート
※1：再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で買い取ることを定めた国の制度
- 平成27年4月現在、**全国で13箇所**の木質バイオマス発電所※2が稼働しているが、**林業県である本県には無い**
※2：未利用木材を年2万トン以上使用する発電所

支援制度

素材生産者

① 燃料原木の運搬経費を支援



1,000円/トン ※供給開始後
1年限り

〔供給協議会の設立や、発電所との
5年以上の供給協定が必要〕

木質バイオマス発電所

② 電力安定供給に必要な発電開始前の燃料原木ストック資金を支援



燃料原木購入費に係る
利子相当額の助成 ※発電開始前
1年限り

木質バイオマス発電所への県内木材の需要（見込み）：約4万トン/年

新たな木材需要の創出により、林業全体が活性化

産業振興や地域活性化につながる**施設整備と運営の新たな手法**を検討

※わかやま版PFI

ホテルやオフィスビルなどの地域の活性化に資する施設の建設にあたってイニシャルコストを県が負担する一方で、施設の運営・管理に営業力や専門知識など民間のノウハウを活用する新たな公設民営方式

わかやま版PFIのメリット

- 民間企業にとって初期投資が少なくてすむ
- 県内における民間企業の事業機会が拡大する



➡ 「PFI推進室」を新設し、検討する

新生 農林大学校(仮称)

平成28年度：14,548千円
(新規)

農業大学校を改編し、優れた経営感覚を持つ農業者や林業者を育成

農学部

➤ **【新設】アグリビジネス学科（定員10名、2年制）** <平成29年度設置>

育成する人材

- ・ 企業的感觉を備えた農業経営者
- ・ 6次産業化に必要な知識を持った農業者

➤ **【既存】園芸学科（定員30名、2年制）** ※現在は定員40名

➤ **【新設】アグリビジネス公開講座** <平成28年度開講>

- ・ 受講対象者：農業者、就農希望者、農大の学生等

林業研修部【新設】

➤ **【新設】林業経営コース（定員10名、1年制）** <平成29年度設置>

育成する人材

- ・ 実践的な技術と知識を持ち、川上から川下までトータルにサポートできる即戦力となる人材

➤ **【一部拡充】スキルアップコース** <平成29年度拡充>

- ・ 本格架線集材技術者及び林業多能工技術者の育成 ※現場での研修を充実

➤ **【新設】林業経営公開講座** <平成29年度開講>

- ・ 受講対象者：林家、林業従事者等

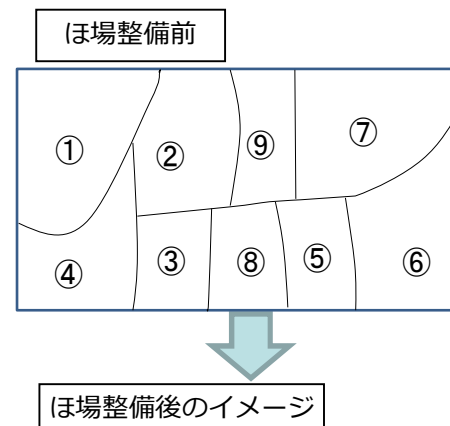
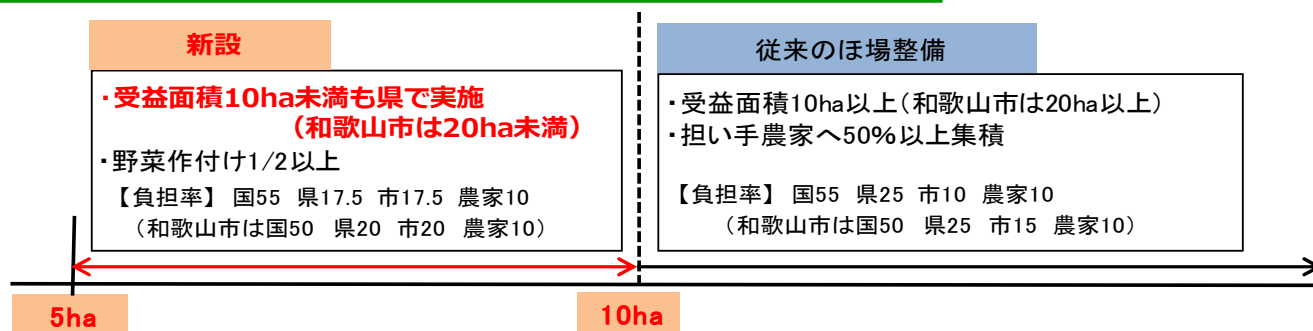
野菜・施設園芸団地整備推進

農林水産部 農業農村整備課 [2952]

担い手に農地を集積し、露地野菜や施設園芸に対応できる農地とするため、ほ場整備を推進

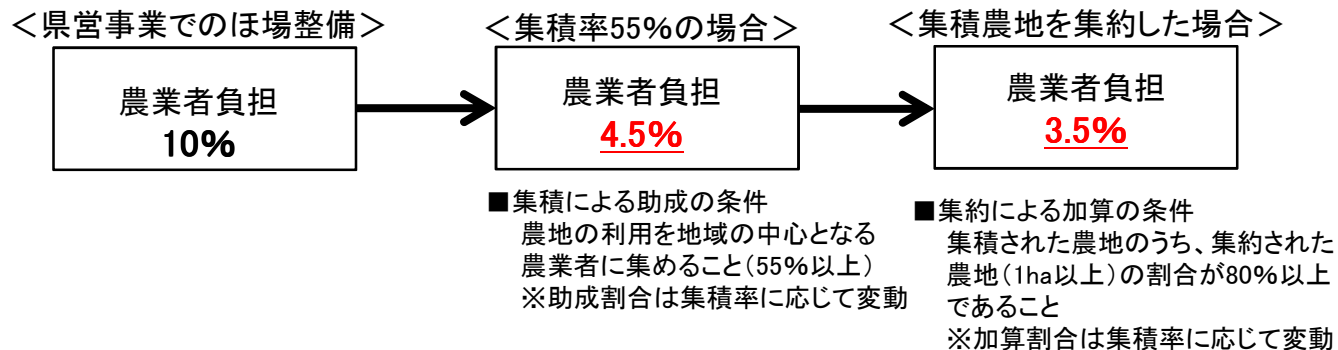
※ 対象とする整備地は市町村の申請をもとに選定

① 規模の小さなほ場整備（5ha以上）を県営事業で実施



② 地域の中心となる担い手への集積・集約に応じた上乗せ助成制度を創設

具体的な例



③ 農業用施設（ハウス・果樹棚等）の撤去・移転に対して助成

野生鳥獣害対策

平成28年度：422,293千円
(424,796千円)

野生鳥獣の捕獲対策、わかやまジビエの消費拡大・供給量拡大のための取組を推進
※平成22年度比約3倍の予算で取組をさらに強化

捕獲対策の強化

- 有害鳥獣等の捕獲支援
- **【拡充】シカの管理捕獲**
 - ・大型囲いわな10基設置により、500頭を捕獲
- **【拡充】指定管理鳥獣捕獲等事業の展開**
 - ・夜間銃猟に加え、わな猟を実施
- **【拡充】狩猟者の育成・確保**
 - ・狩猟の魅力研修において狩猟体験を実施

【捕獲目標頭数：23,800頭】

シカ	10,500頭
イノシシ	10,300頭
サル	1,900頭
アライグマ	1,100頭

食肉利用の促進

- 食肉処理施設の整備支援
- **【拡充】わかやまジビエにおける各制度の普及促進**

わかやまジビエ処理施設
衛生管理認証制度

+

わかやまジビエ
肉質等級制度

 - ・個体識別番号の統一化、認証マーク・格付けシールの貼付
- **【新規】小中学校の給食でのジビエ利用を働きかけ**
- **【新規】ジビエサミット及びサイドイベントの開催**
 - ・全国規模のジビエイベントを実施

森林・林業総合戦略

農林水産部 林業振興課 [2963]

素材生産量目標を達成するため、ゾーニングを行い、「選択と集中」を強化

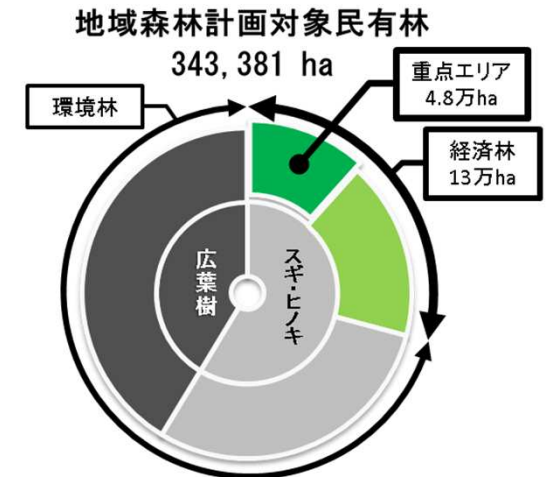
素材生産量目標 16.6万m³ (H25) ⇒ 23万m³ (H31)

平成
28年度

- 「経済林」及び集中投資を行う「重点エリア」を設定
- 県内需要に対する県産材シェア回復推進
- 優秀な人材の育成・確保

平成
29年度～

- 「重点エリア」に対し集中的に支援
 - 植栽から主伐まで計画的に支援
 - 基盤整備の充実
(作業道開設経費支援・高性能林業機械導入支援など)
- **重点エリアを除く経済林**→育林を主眼とした保育事業に対し支援
- **環境林**→公有林化や切捨間伐、針広混交林化により措置
(素材生産支援は行わない)
- 木質バイオマス発電の活用



選考因子

- 経済林
 - ・3m以上の道路からの距離 (500m以内)
 - ・山腹傾斜角(40°未満)等
- うち**重点エリア**は、下記の条件を満たしたもの
- ・施業履歴
 - ・林内路網密度
 - ・森林経営計画策定状況等

グリーンツーリズム・ブルーツーリズムの推進

平成28年度 : 2,891千円
平成27年度補正 : 24,000千円
(新規)

農林水産業と観光を融合したグリーンツーリズムやブルーツーリズムを推進

◆地域協議会の立ち上げ

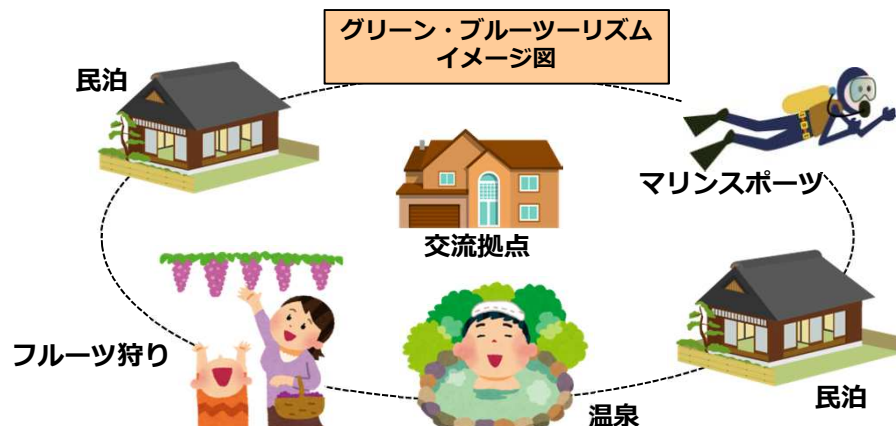
- ・「エリアリーダー」の発掘・育成
- ・農林漁業者、商工会、観光協会、市町村等で構成

◆エリアリーダー中心の地域協議会を運営

- ・専門家などのアドバイザーをエリアに派遣
- ・交流拠点を核とした周遊ルートの検討
- ・地元の人たちによる手作りマップの作成等

◆エリア整備計画の承認とハード・ソフト事業の支援

- ・ハード事業
拠点施設及びそれを補完する農林漁家民泊等の施設整備
- ・ソフト事業
モニターツアーの開催
PRパンフレットの作成等



5年間で20～30地域を支援

県下全域で年間2万人を受け入れる体制を整備

大河ドラマ「真田丸」を活用した誘客促進

平成27年度補正：40,000千円
(65,000千円)

戦国時代を切り口とした新たな観光コンテンツ「戦国わかやま」

- ・大河ドラマ「真田丸」の放送開始に伴い、戦国の時代・人物に注目が集まっており、歴史観光資産を数多く有する本県にとって一層の誘客を図る絶好の機会
- ・官民連携で、持続的に集客できる観光資源として広域周遊「戦国ルート」を創出

大河ドラマ「真田丸」・戦国わかやま誘客キャンペーン推進協議会

(構成：県・関係8市町・観光協会・旅行事業者・交通事業者等)

「戦国わかやま」をコンセプトにした広域的観光地域づくり

- ・「戦国わかやま」のブランド戦略
- ・広域観光ルート「戦国ルート」の開発、PR活動
- ・スタンプラリー・トレッキングなど広域イベントの実施

真田を軸に、連携した
情報発信・PR活動等

大阪市（大阪城）
・長野県上田市

新たな
ターゲット層への
積極的な働きかけ

歴史ファン・
歴女を
呼び込み

【戦国ルート】



誘客

九度山・真田ミュージアム
を集客拠点とした、戦国の
歴史ストーリーを体感する
周遊ルート



九度山・真田ミュージアム
(H28.3開館)

「水の国、わかやま。」キャンペーン

平成27年度補正：30,000千円
(新規)

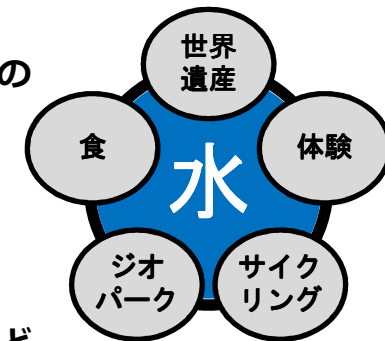
「水」をテーマにまだ知られていない「和歌山」を発信し、世界遺産をはじめとするブランドとゾーニングすることで集客力の弱い地域にも観光客を誘導

〈キャンペーン概要〉

- 新たな観光周遊ルートや旅行商品の開発
- 水の魅力を発信する写真展の開催
- ウェブサイト開設や各種メディア展開
- 大手私鉄グループとタイアップしたPR

※水にまつわる観光資源

- ・ 滝、清流などの絶景や良質の温泉などのスポット
- ・ 醤油、酒、酢などの食
- ・ カヌー、ラフティングなどの体験
- ・ 南紀熊野ジオパーク
- ・ 水辺を楽しむサイクリングロード など



世界遺産・周辺スポット



食



体験



外国人観光客への対応強化

企画部 文化国際課 [2054]
商工観光労働部 観光交流課 [2789]
県土整備部 港湾空港課 [3154]

平成28年度 : 140,516千円
平成27年度補正 : 76,600千円
(94,971千円)

海外向けの情報発信、誘客促進及び受入体制の整備により、インバウンド対応を強化

情報発信

◆FIT（外国人個人観光客）への情報発信

映像・ウェブ・雑誌等メディアを効果的に組み合わせ、国別の嗜好に応じた情報を発信

◆体験型観光・教育旅行の情報発信

マーケットニーズに合わせ、体験型観光のメニューや学校交流、民泊体験の情報を発信

◆外務省飯倉公館を活用した誘客プロモーション

海外メディアや観光業界に影響力の強い関係者等、発信力あるキーパーソンへの働きかけ

誘客促進

◆国際チャーター便の運行支援

南紀白浜空港を利用する国際チャーター便に対して、運航費用の一部を補助

◆国際線誘致に向けた南紀白浜空港の受入体制整備

◆中国への観光プロモーター新設

中国市場の成熟化に伴い、富裕層向け旅行商品の造成を働きかけるプロモーターを新設

受入体制

◆多言語電話通訳サービスの導入

県内事業者が24時間利用できる多言語電話通訳サービスを導入

◆おもてなしトイレの整備

公衆トイレへの温水洗浄便座の導入をはじめ、市町村が実施する観光施設整備を支援

世界遺産追加登録 参詣道魅力再発見

平成28年度 : 16,994千円
平成27年度補正 : 61,169千円
(30,008千円)

世界遺産の追加登録を契機に、さらなる
誘客促進と受入体制の整備を実施

■ 和歌山県世界遺産センターのリニューアル

「どこよりも訪れやすい世界遺産」をPR

■ 案内サインの再整備

参詣道の誘導板・解説板などを再整備

■ 新規バスルートの開設

利便性向上のため「関空～高野山」ルートを新設

追加登録の概要

【追加時期】平成28年7月(予定)

【提案資産】22ヶ所

- 高野参詣道・・・4ヶ所
- 熊野参詣道 中辺路・・・9ヶ所
- 熊野参詣道 大辺路・・・9ヶ所

※従来までの8市町に加えて、新たに3市町
(橋本市、上富田町、串本町)が資産を保有

